

Press Release

2014年2月13日

メドピア株式会社

「大学の講義を英語にする必要性」について 6割以上は英語にする必要はないと考えている

医師6万人以上が参加する医師専用サイト「MedPeer」(メドピア、<https://medpeer.jp/>) を運営するメドピア株式会社<東京都渋谷区、代表 石見陽 (医師)>は、会員医師を対象に「大学の講義を英語にする必要性」についてのアンケートを実施し、以下のとおり、結果を取りまとめました。

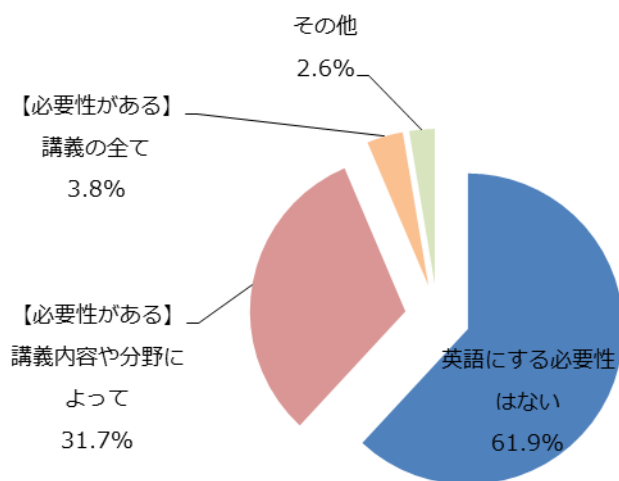
医師専門サイトMedPeer調査結果：「大学の講義を英語にする必要性」について (総回答：3,512人)

順位	回答	回答数(人)	占有率
1	英語にする必要性はない	2,174	61.9%
2	【必要性がある】講義内容や分野によっては英語にすべき	1,113	31.7%
3	【必要性がある】講義の全てを英語にすべき	132	3.8%
4	その他	93	2.6%
-	合計	3,512	100.0%

サマリー：

- 医師専門サイトMedPeer (メドピア) に登録する医師 (6万人以上) を対象に「**大学の講義を英語にする必要性はありますか?**」という質問をしたところ、**3,512**件の回答が寄せられた。
- 「英語にする必要性はない」という回答が最も多く、61.9%を占めた。主に、英語で講義する場合の教員の問題、学生の理解力の問題が指摘されている。「医学部の教員は英語には精通していない」「講義を英語にして理解度が低下するようなら、本末転倒」といったコメントがみられた。
- 「【必要性がある】講義内容や分野によっては英語にすべき」は31.7%。「国際学会発表や論文を書くときに役立つ」「国内での臨床のみを目指す学生には不要」という意見があった。
- 「【必要性がある】講義の全てを英語にすべき」は3.8%。「国際化に対応していくために必要」「外国からの学生を受け入れるためにも必要」といったコメントがあった。

▼総合結果



n=3,512 MedPeer調べ

回答コメント（回答一部を抜粋）

「英語にする必要性はない」 2,174件

- ・ 教員の負担が大きくなる。一方で、英語教育で理解できなくなる学生が増える。メリットを感じない。(50代、一般内科)
- ・ 良い邦訳があるので、英語の授業以外は日本語で良いと思う。(40代、精神科)
- ・ 講義内容を十分理解することが先決。英語の習得のための機会を別に設けるべき。(50代、消化器外科)
- ・ 旅行者医療を進めるためには英語が必要かもしれないが、日本人相手ですから日本語でよいのではないのでしょうか。母国語で医学教育できる国は少なく、誇りをもつべきです。(60代、一般内科)
- ・ ここは日本で、患者もほとんどが日本人です。そうでなくとも患者へ分かりやすい説明が求められている今日ですから。(50代、循環器外科)
- ・ 発展途上国には自国語の医学の教科書はありません。日本語の教科書を作るために努力した先人の思いを無にして、敢えて医学後進国になる必要はないと思います。(50代、循環器外科)
- ・ 一般の臨床医に特別英語のスキルは必要ないと思う。ただ今後の医療グローバルズムを成長戦略とするならば、特定の大学で養成してみたらいかがでしょうか。(50代、一般内科)
- ・ 英語の教科書などは使用して良いと思うが、講義を英語にする必要性は無いと思う。(40代、消化器内科)
- ・ 英語で講義をすることで講義内容も理解レベルも逆に下がると思います。(50代、緩和医療)
- ・ 医学部の教員の方々の中には、英語で講義を行うことができない方のほうが圧倒的に多いと思います。(40代、消化器内科)
- ・ 講義では医学を教えるのが最優先で、英語を教えるのが目的ではないと思います。(50代、整形外科・スポーツ医学)
- ・ 医学部の設置の一番の目的は日本国の医師を養成する事です。そのために多額の税金が投入されています。もちろん医学研究も重要ですが、それは一部の超優秀な人々に集中投資すべきです。ほとんどの普通の医者にとって、英会話能力

は全く必要ない。そんなことを普通の国民は期待していない。(50代、循環器内科)

「【必要性がある】講義内容や分野によっては英語にすべき」 1,113件

- ・いきなりすべては無理と思います。少しずつ講義の内容によって可能なものから始めるのが实际的。(50代、一般内科)
- ・英語を学生の頃から勉強しておけば、と実地に出て痛感しました。(40代、呼吸器内科)
- ・英語にしたほうが国際学会発表や論文を書くときに役立つと思います。(30代、腎臓内科・透析)
- ・現在日本国内でしか有効でない医師免許を、将来的には外国での診療が可能になるようにすべきだと思う。そのためには英語での授業も必須だろう。(40代、小児科)
- ・大切なことは、講義の内容である。英語で講義をできる先生は英語でやってもらう。英語では十分に講義の内容を学生に伝えられない先生には強制すべきではない。(70代、一般内科)
- ・現状すべての講義を英語にするのは現実的ではないので、例えば内科診断学などの臨床医学の入口から、段階的に進めていくとよいのではないのでしょうか？(40代、眼科)
- ・全て英語にしたら時間がいくらあっても足りない。(50代、整形外科・スポーツ医学)
- ・すべてを英語にして、基本的知識が入らないなら本末転倒だと思います。(30代、小児科)
- ・ほとんどの医師が国内で日本人相手に仕事をするのであるから、無理やり英語で学習して不正確な知識を得るより日本語で正確な知識を得る方が現実的。英語医学コースのようなものが選択できるようにすれば良い。(60代、呼吸器外科)

「【必要性がある】講義の全てを英語にすべき」 132件

- ・医師でなくとも、これからの時代に世界共通言語の英語が使えることは必須であろう。日本が世界の趨勢から遅れすぎている。(50代、精神科)
- ・英語が世界共通言語として第一位にくる以上、その習得は今後、日本人が世界に出て活躍するために必要不可欠と考えます。(40代、血管外科)
- ・アジアの先進国の医学部は10年以上前から英語の講義を取り入れています。日本は遅れています。今頃こんなことを議論しているようでは、国際的な競争に参加できません。(60代、消化器外科)

「その他」 93件

- ・英語にする必要はあるが、高校までの受験英語ではほとんどの学生がついていけないでしょう。(60代、一般外科)
- ・医学英語の講座をもうけるならいい。専門分野を英語で教えるには講師はnativeでないと…。また、学生自身は英語の授業では理解力が落ちるでしょう。(40代、整形外科・スポーツ医学)
- ・英語で講義できる講師はほとんどいないでしょう。理解できる学生も少ないと思いますが、むしろ医療英会話のような講座があればいいなと感じました。(50代、小児科)

※調査方法

□期間：

：2014年1月20日（月）～ 2014年1月26日（日）

□有効回答：

3,512人（回答者はすべて、医師専門サイトMedPeerに会員登録をする医師）

□設問：

医師専用サイト MedPeer内の「ポスティング調査」コーナーにおいて、MedPeer事務局（運営：メドピア株式会社）より、以下の質問を投げかけました。

調査フォーム（設問文 抜粋）

私は、医学教育において英語で講義を行うことは重要と考えています。最先端の医学を学び研究し、その成果を発表するためには、英語のスキルは欠かせません。

医学部の教員の方々の中には、英語で講義を行うことができる方もいらっしゃるかと思いますので、物理的には困難ではないと感じています。

そこで皆さんにお聞きします。医学部の講義を英語にする必要性はあるとお考えですか。

以下の選択肢より適当なものをご選択いただき、皆さまのお考えについてコメント欄にご記入ください。

-
1. 【必要性がある】講義の全てを英語にすべき
 2. 【必要性がある】講義内容や分野によっては英語にすべき
 3. 英語にする必要性はない
 4. その他

【本件に関するお問い合わせ先】

メドピア株式会社 管理部 TEL：03-6805-0345 / e-Mail：info@medpeer.co.jp

【記事掲載に際してのお願い】

- ・「医師専用サイト MedPeer 調べ」、であることの明記をお願い致します。
- ・web 上での引用に際しましては、<https://medpeer.jp> へのリンクをお願い致します。

■MedPeer（メドピア）とは - 2013年9月末日時点 -

MedPeer は、メドピア株式会社が運営する、医師専用のインターネットサイトです（URL: <https://medpeer.jp/>）。会員医師同士による情報共有サービス「薬剤評価掲示板」や、特定疾患治療に関するエキスパート医師による情報提供「Meet the Experts (MTE)」、有名臨床指定病院の所属医師参加のオンライン症例検討会「インタラクティブ・ケース・カンファレンス」などを MedPeer 上に設け、「臨床の決め手がみつかるサイト」として、多くの医師に利用されています。現在の会員は6万人以上で、日本の医師の約4人に1人が利用するサービスです。また、「薬剤評価掲示板」では、約1,900の医療用医薬品に対して、26万件以上の医師会員による処方実感、クチコミ評価が投稿されています。

以上